

シーン別 医学部受験 30 知っておくべきポイント

医学部受験の基礎知識を専門家に聞いた。早めに準備して合格への一歩を踏み出そう。

文／石村紀子 イラスト／あべさん



医学部受験 富士学院
学院長 村田慎一さん

毎年多数の医学部合格者を輩出する富士学院で学院長を務める。全国の高校や媒体から依頼を受け、医学部受験に関する講演を行い、高評を得ている。



医学部専門予備校 クエスト
代表 長原正和さん

長年、医学部受験に携わり、その豊富な経験から受験生に親身な指導をしている。塾生一人ひとりに対して現状分析やアドバイスをを行う面談には定評がある。

02 「定期テストをおざなりにしない」

学校の勉強をしっかりと身につけるために、マイルストーンとしてうまく活用したいのが定期テストだ。自分の理解度や苦手な分野などを把握する、いい指標となる。間違った箇所をその都度復習して、穴をできる限りつぶしておけば、本格的な受験勉強にすんなりと移行できる。

「ただし、定期テストで高得点が取れたから大丈夫だと満足してはダメです。定期テストは決まった範囲からの出題ですが、受験では試験範囲の枠を取り払った上で出題されます。点を取ることを目標とするのではなく、「なぜ？どうして？」と考えながら理解を深めるようにしてください。それが基礎を積み上げることに繋がります」(長原さん)



中学・高校 編

受験勉強の土台を作る大切な時期。
学校の授業をきちんと
理解して基礎を固めておこう。

01 「教科書の内容を真に理解しておく」

医学部の試験は難しい。難問を解くためにはしっかりとした基礎が重要。まずは教科書の内容を理解しておくことだ。授業に集中して、そのときどきの学習内容を理解するように努めることはとても大切だ。あやふやな部分を残したまま進むと、応用問題に進んだとき必ず行き詰まり、結局やり直さなければならなくなる。特に、積み上げ式の科目である数学と英語は習得に時間がかかるので、学年が低いうちから着実に学習しておきたい。また現役生は理科が弱くなりがちなので、低学年のうちから普段の授業を頑張っておこう。医学部受験はすべての教科で高得点を取る必要があるの、苦手科目を作らないようにすることも大切だ。「問題を正確に読み解くためには国語力も大切です。共通テスト導入以降、医学部入試でも問題文が長文化していますから、出題の意図を読み間違えると致命的です。理系進学では優先度が低くなりがちですが、できるだけたくさんの文章に触れて、速く正確に読めるよう、読解力を磨いておきましょう」(村田さん)



05 「勉強習慣をつけておく」

受験期は、長時間膨大な量の勉強をすることになる。受験生になったとたん、いきなりできるわけではないので、習慣化しておくべきだ。一般的には受験期の前までに平日2～3時間、休日5～6時間集中できるような状態になっておくことが望ましいと言われている。「勉強時間には個人差があるので、これならOKという基準はありません。重要なのは内容の濃さと継続性です。勉強のための勉強ではなく、学び、知ること自体がおもしろいと感じられるようになると強いです。今、学んでいることは、将来につながっていると心得て臨みましょう。勉強を日常に組み込んだ生活リズムを作ること大事です」(村田さん)

「勉強することが苦ではないという状態になっておくことが大切です。毎日決まった時間に机に向かう習慣をつけましょう。長時間やればいいわけではありませんが、ある程度の量をやらないと知識は定着しないものなので、量の確保は大切です」(長原さん)

06 「低学年のうちにオープンキャンパスに行っておく」

面接では必ず志望理由を聞かれる。医師になりたい理由、この大学で学びたい理由を自分の言葉で語るために、オープンキャンパスには参加しておこう。時間の余裕がある低学年のうちにに行くのがおすすめ。付属病院や実習設備、学生の雰囲気、研究体制、大学の理念や教育方針など、意識的に見学してこよう。1～2校見学すれば医学部の雰囲気はつかめる。実際に見ることで勉強のモチベーションも上がるはずだ。

03 「評定平均を上げておく」

高校在学中にできる受験対策として、評定平均を上げるということがある。評定平均が高ければ、総合型・学校推薦型選抜(推薦入試)を狙えるからだ。ここ数年、医学部でも推薦入試での募集割合は増えつつある。現在、国公立大は約3割、私立大は約2割が推薦枠で、一般選抜より試験科目が少ない、倍率が低いなどのメリットがある。何より受験機会を増やせるのは大きな魅力だ。医学部の推薦入試では、高校3年生の1学期の評定平均が5段階評価で国公立大は4.3以上、私立大は4.0以上を目安としているところが多い。また調査書は推薦入試だけでなく、一般選抜でも、人間性および医師にふさわしい人物であるかを評価するための資料として用いられる。

「出欠状況や活動実績、学習態度などが参考にされます。何かひとつ打ち込んだ経験があるといいですね。欠席が多い場合は体力面で不安視される傾向があるので注意しましょう」(村田さん)

04 「社会問題を考察するクセをつける」

医学部受験には小論文と面接がある。学科試験では測れない医師としての資質や適性、人間性、論理的思考力などを評価するためだ。小論文は、医療に関するテーマや社会問題など、幅広い分野から出題されるので、日頃からこうしたテーマに関心を持ち、考察しておくで慌てずにすむ。面接は志望動機や理想の医師像などの質問が一般的だが、想定外の質問を投げかけられる場合もある。知識や興味の広さ、柔軟な対応力、コミュニケーション能力などを見るためだ。常日頃から何をどう考えているかが試される。

「医学部に入るといことは医師になるということ。人物評価が重要視されるのは当然です。実際、学科試験で基準点を上回っていても、面接で不合格になるケースはあります。受験テクニックで乗り切ろうとしても見破られるので、見識を広げ、自分の言葉で考えを伝えられるようになりましょう」(村田さん)

08 「原理原則を理解する」

医学部の入試問題は基礎知識を組み合わせた、複雑な問題を読み解いたりする応用力が求められるものが多い。知識を応用するには、公式や用語の丸覚えではなく、原理原則を理解することが必要だ。原理原則とは、物事の根本的な法則や基礎となる考え方のことだ。

「問題が解けるだけでなく、なぜその公式を使うのか、どういう定義や法則があるのかなど、一歩深めたところまで理解をするように心がけましょう」(長原さん)

「暗記だけの学習をしてきた人には解けないような作問がなされています。自分の言葉で原理や背景を説明でき、初見の応用問題にも対応できるようになるまで、理解を深めましょう」(村田さん)

09 「思考力を育てる」

ひとつの問題を解いただけでは医学部の対策として不十分。それだけでは複雑な問題や角度を変えた出題に太刀打ちできないからだ。「解いて終わりとする人が多いですが、それはただの答え合わせです。それでは問題の設定を変えられと解けません。もっと速く、確実に解ける方法はないか、考える習慣をつけましょう。例えば、理系科目には問題集に別解がついています。別解が何を狙っているかも併せて理解を深めるといいですね」(長原さん)

「入試では初見の問題にどうアプローチするかが問われています。これに対応するには類題をたくさん解いて、その分野を本当の意味で理解したところまでもっていくことです。同じ問題を違う角度から出されても「これはあの問題だな」とわかるようになることが大事なのです」(村田さん)

10 「たくさん問題を解く、スピードに慣れる」

医学部の試験では大量の問題を正確に、速く解く処理能力が必要となる。

「近年、共通テストはどの科目も問題が長くなっています。出題意図や問題を正しく読む力がより必要になっていると言えます。問題量も多くスピード勝負、瞬発力と正確性が求められています」(長原さん)

「大量の問題を時間内に終わらせるスピードと処理能力は、地道に訓練しないと身につかないものです。解けたとしても長い時間がかかるようでは本番の入試では通用しません。日頃の学習から時間を意識して解く習慣を身につけてください」(村田さん)

受験勉強 編

医学部はすべての教科で高得点を取らなければ受からない。苦手科目を克服し、穴を埋めよう。



07 「勉強スケジュールを立てる」

苦手な科目、分野をなくし、すべての教科で高得点を取るためには計画的な勉強が必要だ。国公立大の場合は、共通テスト対策も必須となる。遅くとも夏前までには受験範囲を終わらせ基礎を固め、夏休みに応用問題を始め、秋以降は過去問に取り組みたいところ。先取り学習を意識したい。全体の勉強スケジュールを組み立て、週に1度の復習、月に1度の見直しをしないと。理解が追いついていないと感じたら、焦って先に進むのではなく、スケジュール自体を見直すべきだ。「医学部の試験問題は癖が強く、大学ごとに特徴が異なります。そのため、過去問をやり込むことが不可欠です。基礎が固まってから実践として取り組むのが一般的ですが、出題傾向や要求されているレベルを知るために、早い段階で一度解いてみるのもおすすめです。到達するために何をどれくらい勉強しなくてはいいかわかるからです」(長原さん)

「できる問題が出題されれば高得点が取れる。つまり、受験は確率論なのです。確率を上げるためには、できるだけたくさん問題に触れ、取り組んだことがある類題を増やすことが大切です。そして、理解と再現の確実性を上げるためには復習が大事。復習の時間を含めたスケジュールを組み立ててください」(村田さん)

13 「苦手科目ほど 時間を割いて勉強する」

医学部の試験は難問もあるが、標準的な問題の割合も多く、それを確実に解ける人のほうが合格することがわかっている。つまり苦手な科目や分野をできるだけなくすることが大切だ。

「医学部受験で一番きついのは、全体の要求点が高いゆえに、不得意科目から逃げられないことです。得意分野の勉強を進んでやる人は多いのですが、苦手な科目や分野の最低ラインを上げることを頑張るほうが大切です。わからないことを放置するのは一番いけません」(長原さん)

「苦手を克服できない人は、自分がどこまで理解して、何ができないのかを把握できていないケースが多いです。中学まで戻って勉強し直したほうが早い場合もあります。頑張っても点数が上がらない場合は、なぜ自分はそこが弱いのか、解けない理由について、先生にアドバイスをもらうといいですね」(村田さん)

14 「弱み、苦手を分析し、 復習を大切にする」

成績が伸びる人の特徴は、問題を解いた後に振り返り、分析と評価をすることを習慣化しているところ。間違えた問題は念入りに分析すべきだ。

「間違えた原因と正しい知識、次回どうするのかの3点をノートに記録し、週ごとに見直すといいでしょう。人間は必ず忘れます。覚えたことを長期記憶として定着させるためには反復して復習することが何より大切です」(村田さん)

「高層ビルは、不安定な土台の上に積み上げたら、いつか必ず崩れます。受験もそれと同じ。穴をつぶして、基礎を固めることが大切です。そのためには繰り返しの反復、復習が不可欠。問題を解きっぱなしにしている人は成績が伸びません」(長原さん)



11 「参考書や問題集 は自分に合った ものを選ぶ」

医学部に合格した人が使っていたから、世間の評判がいいからなどの理由で参考書を選んだり、医学部の試験は難しいから、難しい問題集のほうが合格に近づけそうだという理由で背伸びをして挑戦したりする人がいるが、それは大間違い。自分のレベルに合わない問題集や参考書を使っても理解が深まりにくく、効率が悪い。複数冊に手を出すより、1冊を確実に網羅するほうが効果的だ。

「難しい問題を解く練習をしたがる人は実際多いのですが、医学部受験では、標準問題を確実に解ける人のほうが合格します。逆に難問が解けても標準問題を落としたり受かりません。自分のレベルに合ったもので、弱点を強化し、学力を底上げできるような参考書や問題集を選ぶことが大切です。一步一步、着実に積み上げていってください」(長原さん)

「勉強とはできることを増やす作業です。そのためには、今の自分のレベルに合うものを使って勉強し、理解できたら難易度を上げていくやり方が効果的です。しかし量はたくさんこなしてください。ある類題を100問解いた人と10問しか解かなかった人では解答確率に10倍も差がつきますから。類題をたくさん解くことで、自分のミスの傾向もわかってきます」(村田さん)

12 「医学部ならではの 単語や問題にも 慣れる」

他学部ではあまり見かけない問題が出題されることもある医学部の試験。特に生物は医学部が本気になって出題するため、人体、医療、遺伝などに関する難問も多い。意識して勉強しておこう。

「例えば英語では、diagnosis(診断)やethics(倫理)などの英単語や、医療トピックに関する問題が出題されます。数学や理科についても、設定が複雑だったり、ひとひねりしてあったりする問題が多いです。慣れるためにも類題をたくさん解きましょう」(村田さん)

「どんな内容について出題されているか、難易度はどれくらいか、いくつかの大学の過去問を見て、まず確認してみるといいでしょう。今の自分に不足している知識や、何をどこまで追求して勉強すべきか、見えてくるはずです」(長原さん)

16 「学費がいくら かかるか調べる」

医学部の学費は高い。国公立大は他学部と同額だが、私立大では大学によってかなりの差がある。前もって志望する大学の学費を調べ、保護者と相談しておこう。ローンなどを利用する場合は、審査に時間がかかる。納入期限に間に合わないということがないように、余裕をもって準備をしておく必要がある。特に初年度納入金は、入学金も含むため高額になる。私立大の初年度納入金は平均して400万～700万円程度、高いところでは1000万円を超える。ほか、入学後に必要となる実験実習費、参考書や教科書の購入費、備品購入費なども他学部に比べれば高くなるので、余裕をもって準備しよう。自宅から離れた場所の大学に行く場合は、さらに家賃や生活費なども必要となる。

(医学部の学費)

	入学金	学費 (6年間総額)
国立大	282,000 円	3,214,800 円 *東京大学、千葉大学、東京科学大学は 3,857,760 円
公立大	282,000 円	3,214,800 円 *基本的には国立大と同じだが、地域住民と それ以外で差がある
私立大	200,000 ～ 2,000,000 円	18,500,000 ～約 47,000,000 円

17 「奨学金制度の 利用を検討する」

学費を預貯金だけでまかなえない場合は、奨学金や教育ローンでどこまでカバーできるか調べてみよう。代表的な奨学金は、日本学生支援機構 (JASSO) の奨学金。無利子の第一種と有利子の第二種があり、利用条件が異なる。私立大医学部で自宅外通学者の場合は、第二種であれば月額16万円まで借りることが可能だ。ほかに大学独自の奨学金、財団や医療法人などが行っている民間の奨学金、自治体が運営する奨学金などもあるので、探してみよう。また、返還の必要がない給付型奨学金もある。住民税非課税世帯とそれに準ずる世帯が対象で、入学金と授業料の減免・減額を受けることが可能だ。詳細は文部科学省のホームページで確認できる。

教育ローンは日本政策金融公庫の「国の教育ローン」が、民間に比べて金利も安く、利用しやすい。契約が成立したら一括で貸し付けられるので、入学金や就学準備金に充当することもできる。医学部の場合は、450万円まで借り入れが可能だ。ちなみに、教育ローンは保護者が借りるもの、奨学金は本人の借り入れとなる。奨学金の利用にあたっては、返済できるのかどうか不安になる人も多いが、医師として働けば十分返済できるので、金銭面が問題の場合もあきらめずに利用を検討してみよう。

受験校 選び 編

どの大学でも基本的なカリキュラムは同じ。入れる確率の高い大学を選ぶのが賢い選択だ。

15 「地域枠を利用 するか考える」

地域枠入試は、医師の偏在を解消するために設けられた医学部特有の入試制度のこと。大学を卒業後、指定の期間 (たいていは9年間)、所定の医療機関・診療科に勤務することを条件に学費を免除するものだ。一般の入試に比べると比較的合格しやすいが、卒業後の進路が決められてしまう、合格した場合は辞退ができない、所定期間の勤務を終えずに途中で辞めた場合は学費を一括返還しなければならないなどの注意があるので慎重に考えよう。また、募集窓口が自治体となっている場合は大学の募集要項に載っていないことがあるので、希望の地域がある場合は自治体のウェブサイトなどで調べてみよう。



19 「自分に合う大学を見極める」

医学部の出題傾向は大学によってかなりの差がある。どうしても苦手な分野や解答方式がある場合はそれを避けて、相性のいい大学を選ぶことで合格可能性が高まる。

「過去問に挑戦するなかで、この大学の問題は解きにくい、間違えやすい、なぜか点が取れないなどの相性はわかってくるはずです。かといって、早い段階で偏った勉強にシフトするのは問題です。出願校を最終的に決めるのは年明け頃。それまでは、どの大学にも対応できるよう、学力を上げることを考えましょう」(長原さん)

「自分が得意とする問題や単元を多く出してくれる大学を受ければ高得点が狙えるわけですが、全大学照合して見極めるのは至難の業です。模試の結果などを持参して、専門家にアドバイスをもらうことをおすすめします」(村田さん)

20 「受験スケジュールを考える」

共通テストから後期試験が終わるまで約2カ月。どの大学を何校受けるかは慎重に検討すべき問題だ。私立大は日程が重複するところも多い。地方の大学の場合、1次試験は会場が複数ある場合があるが、2次試験は現地のみという大学がほとんど。移動時間も考えて予定を組むことが必要だ。入試日前後の大学周辺の宿泊施設はかなり前から埋まる。特に観光地は近年予約が取りにくくなっている。受験の可能性がある場合は早めに予約しておこう。

「出願時の必要書類は大学や入試区分によって異なるので、よく確認して準備しましょう。入試区分ごとに調査書の提出が必要な大学もあります。志望理由なども事前にきちんと考えておきましょう」(村田さん)

「出願校は第1志望は本人が、それ以外は専門家の意見をもとに決めるといいでしょう。出願時期、本人は最後の追い込みで大変です。手続きに漏れがないよう、保護者も協力してあげてください」(長原さん)

医学部受験スケジュール

	9/16~10/3 共通テスト出願				1/17, 1/18 共通テスト		2/25~ 個別試験(前期)	
	9~12月 総合型・学校推薦型選抜				1/26~2/4 受験校決定・出願		3/12~ 個別試験(後期)	
国公立大	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
私立大	9~12月 総合型・学校推薦型選抜				12~1月 出願		1/20~ 一般選抜(前期) 合格発表後、 1~2週間以内に 入学手続き	
							2/28~ 一般選抜(後期)	

18 「受験費用を知る」

私立大医学部の受験料は1校6万円。受験校の平均は5~7校、10校受験する人も少なくないため、それだけでもかなり高額になる。さらに医学部受験は全国の大学が対象となるので、自宅から離れた大学を受験する場合には、ホテル代や交通費もかかる。さらに、気をつけなければならないのは、本命以外の併願校の入学手続きにかかる費用だ。私立大の入学金は100万~200万円が一般的で、本命の合格発表前にその額を納入しなければならないケースが多い。医学部は補欠合格や繰り上げ合格も多く、3月後半以降に発表になることもある。すでに払った入学金は原則、返還されない点も要注意だ。

「合格しても辞退する可能性のある大学への納入をどうするか、受験校の優先順位を含め、家族で話し合い、資金の調達をしておきましょう。各校の納入期限や繰り上げ通知の時期を事前に調べて、慎重に計画を立てることをおすすめします」(村田さん)

医学部の受験料

共通テスト	18,000 円
国公立大 2次試験	17,000 円
私立大	60,000 円 *共通テスト利用の場合は 30,000 ~ 45,000 円



23 「医学部に入りたい理由を明確にする」

医学部受験は難関だ。長い道のりを歩き、目的地までたどり着くにはいくつもの困難が待ち受けている。乗り越えるためには、医師になりたいという強い意志が不可欠だ。

「勉強は大変ですが、将来医師になるために必要なことです。それを踏まえて淡々とやるべきことをこなすという子は強いです。医師になるという覚悟と自覚こそ、モチベーションを維持する秘訣です」(村田さん)

「医学部受験は医師になるための就職試験です。奇跡的な合格を勝ち取るのは、医師になるという強い意志を持った人です。医師になりたい理由を自分の言葉で語れるようになってください」(長原さん)

24 「周りの人を味方につける」

受験をするのは本人だが、家族や学校、予備校の先生たちの協力なしに、合格を勝ち取ることはできない。勉強に打ち込める環境がある、医学部に行かせてもらえる経済的な余裕がある、塾や予備校で合格のための道筋を教えてもらえるなどの環境を当たり前と思てはいけません。

「感謝の気持ちがベースにある人は、何か思い通りにいかないことがあったとき、自分に向き合います。そういう人は周りも進んで助けてあげたくなるものです。人の力を上手に借りるスキルを身につけましょう」(村田さん)
「例えば、この問題はこうやって解くと早いと伝えたとき、『そうは言っても僕は』と反論して、我流を押し通そうとする生徒がいますが、そういう人は成績が上がリません。伸びるのは素直な人。経験豊富な先生から教えてもらうことを素直に受け止められる姿勢が大切です」(長原さん)

25 「切磋琢磨できる仲間を見つける」

予備校や塾のいいところは、同じ目標に向かって頑張る仲間ができること。特に医学部専門予備校では少人数制のレベル別クラスになっていることが多いので、切磋琢磨しやすい環境になっている。お互いに進捗を共有し、刺激し合える関係が作れば、モチベーションも維持でき、前向きな努力も続けやすくなる。コミュニケーション力は、医師になってからも大切な資質のひとつ。お互いに助け合える関係を築こう。

メンタル・フィジカル 編

医学部受験に大切なのは体力・気力・集中力、そしてモチベーション！
気をつけるべきポイントは？

21 「スランプの対処法を学んでおく」

思うように成績が伸びない、模試の結果が悪かった、他人と比べて焦ったなどでスランプに陥る人は多い。しかしそれは誰しもが通る道。そのときどう切り替えるかが重要だ。

「頑張っている人ほど落ち込むものです。例えば過去問で3割しか解けなかったことに絶望したとします。しかしその大学の合格ラインが5割なら、あと2割できれば合格できます。スランプを長引かせないためには、何に落ち込んでいるか分析してみることです。やるべきことが見えると前向きになれるはずですよ」(村田さん)

「最終的に合格する人は、調子が悪いときもやるべきこと、できることを淡々とこなします。心理的に逃げないことが大切です」(長原さん)

22 「食事をきちんと取る」

医学部受験は体力的にもハードだ。長丁場を乗り切るためにも食事は大切だ。特に受験本番は、感染症にかかりやすいシーズン。常日頃から栄養に満たされた食事をしないと免疫機能が弱まってしまう。勉強に集中していると食事時間を削りたくなるが、頭を働かせるためにも栄養は必要。意識して食事をするように心がけよう。





29 「浪人した理由を語れるようにする」

浪人生の比率が高い医学部の受験では、2浪までは現役生とほぼ同じ扱いと考えていい。多浪とされるのは3浪からだ。それだけが理由で不利になることはない。一般的に多浪生が不安視されるのは、基礎学力に不安がある、勉強に取り組む集中力に欠けているなどの点。それは大学入学後の進級や医師国家試験に合格できるかの懸念につながるからだ。面接で「この人は大丈夫」と思わせることができるよう、浪人した理由や浪人時代に何を考え、どう頑張ったかをきちんと話せるようにすることが大切だ。

30 「味方になる予備校を選ぶ」

医学部進学のための予備校には大きく分けて2種類ある。医学部進学コースのある大手予備校と、医学部専門予備校だ。大手予備校は、学費は安めだが、生徒一人ひとりに対するサポート体制は弱い。弱点を自分で分析でき、自主学習をどんどん進められるなど、自己管理ができる人向きだ。医学部専門予備校は、少人数制で手厚いサポートが受けられるのが特徴。基礎学力が不足している、苦手な教科がある、自己管理に不安がある人は医学部専門予備校のほうがいだろう。高校のように朝から授業が詰まっている場合も多く、予備校が組んだスケジュールに沿って進んでいけば、浪人生でも自然と生活や勉強のリズムが作れる。質問しやすい環境や細かい進捗管理も魅力だ。また予備校では、医学部受験ならではの情報が手に入る。各大学の試験問題の傾向・分析、試験内容・配点等の変更点など、合否を分ける情報も多い。予備校ごとに特徴が異なるので、実際に足を運んで、自分に合った予備校を選ぼう。

26 「睡眠や運動も大切と心得る」

健康管理も受験の一環だ。勉強時間を確保するために睡眠時間を削るのはぜひとも避けたい。記憶は睡眠時に定着するという科学的な根拠もあるし、何より寝不足は脳の働きを低下させるからだ。また適度な運動は、気分転換になるとともに、脳に新鮮な酸素を送り込むことができるため勉強効率も上がる。自分にとってベストな睡眠時間と運動を知って、生活に組み込むようにしよう。

浪人時代編

浪人比率が高い医学部受験。
現役時代とは異なる点や
注意すべきポイントとは？

27 「合格できなかった理由を明確にして、対策を立てる」

合格しなかったということは、自分の学習レベルがボーダーラインに達していなかったということ。浪人時代を実のある1年にするためにも、まず自分は今のレベルにいて、何がどう足りていないのかを分析することが必要だ。

「基礎がおろそかになっている場合は、そこまで戻ってやり直すことが必要です。基礎とは「簡単なこと」ではなく「大事なこと」ですから。予備校への入学時にも過去の課題と学習傾向を分析したうえで、個別スケジュールを作成します。現状把握が第一ですね」(村田さん)

28 「浪人生が陥りやすいトラップを知る」

浪人生特有の悩みには、生活リズムの乱れ、孤独感や焦り、自己流の勉強で迷走することなどがある。高校と同じような時間割で勉強ができる予備校であれば、おのずとリズムはできあがるが、自由時間が多い場合は厳しく自己管理をしていかなければならない。勉強時間が夜にずれ込み、朝起きられなくなる人も多い。

「生活リズムの乱れは浪人生にとって非常に怖い問題です。直すためには、とにかく朝起きること。必ず予備校に行かなければならない状況を作るのもいいでしょう」(長原さん)

学力向上だけで終わらない、 「良医を育てる」教育で 未来の医療に貢献する富士学院



富士学院 学院長 村田 慎一

18歳人口減によつて大学の受験者数は減少傾向にあるものの、依然として人気の高い医学部受験。その厳しさは衰えない。そんな中、医学部専門予備校として、大学医学部や、全国の進学校からも信頼が厚い富士学院。毎年高い合格実績を育む背景にどんな教育があるのか村田慎一学院長に伺つた。

新課程入試初年度も過去最高の合格実績を達成

▼毎年、過去最高の合格者数を更新してきましたが、2025年度入試の結果を教えてください。

2025年度の医学部医学科入試では、延べ666名が最終合格を果たし、今年度も過去最高を更新しました。医学科専願者の実数は663名で、そのうち395名が合格し、実数での最終合格率は59・6%で、これも過去最高を更新しました。2024年度が58・4%(同専願者実数622名中363名合格)、2023年度が58・0%(同専願者実数559名中324名合格)ですので、毎年2人に1

人以上が医学科に合格しています。新課程入試の初年度ということで、指導する側としてもしっかり準備をして対応した結果です。共通テストの平均点が上がっていますが、新課程入試の初年度としては想定内。むしろ来年度の入試がその反動で厳しくなるかもしれないので、それを見据えた指導を行っていくつもりです。

▼具体的にどういう指導でしょうか？

共通テスト導入以降、問題量が増加し、読解力が求められています。そのため、問題文を正確に読み取る力の育成に力を入れています。また、丸暗記ではなく、教科毎の原理原則を理解し、基礎力を固めたいうえで応用問題に取り組み、思考力を磨いていくことが大切です。さらに、

スピードも重要で、現在の入試は、時間内に解ける人と解けない人を振り分けています。特に、現役生は過去問を時間無制限で解きがちな傾向があるので、日頃の学習から時間を意識し、演習問題を制限時間内に解く習慣を身につけていきましょう。

▼読解力が必要ということですが、医学部志望者には国語が苦手な人が少なくありません。

入試に必要な読解力を身につけるためには国語の力が不可欠です。富士学院では、その国語力をつけるために年間を通して全生徒が小論文の授業を受講しています。現在の医療や社会の出来事を学び、論述のトレーニングを通して、自然と国語力が身につくことにつながります。授業を聞く力、ノートをまとめる力、答案を書く力、さらに医学部受験の面接で自身の考えを適切に伝える力も備わってきます。

その他、富士学院独自の取り組みとして、毎朝授業前に新聞記事の要約や感想を書く「新聞視写」を行っており、

▼本来の予備校の域を超えた活動のようです。

それは、私たちの取り組みが未来の医療へとつながっていくと確信しているからです。富士学院は、「良医の育成」を目標に掲げ、「教え、育む」教育をモットーとしています。「将来、医師になる」という基軸のもと、学力だけでなく人間性も育んでいくことに強い使命感を持っています。それは予備校であっても必要なことであると、私達は思っています。

卒業後も根強くつながる 富士OB会ネットワーク

▼予備校でOB会があるのもめずらしいです。

医師・医大生で構成される「富士OB会」は、卒業後もできる限りの応援を続けたいという想いから18年前に発足し、2025年4月時点で約1,800名が登録、そのうち590名以上が医師として活躍しています。現在は、順天堂大学特任教授の天野篤先生を顧問に迎え、更なるサポートも行っています。

2025年4月には「OB会専用サイト」が完成しました。医療業界を取り巻く環境が大きく変化する中で、OBたちが医師・医学生として縦横のつながりを持ち、直接情報交換を行えることは、OBたちにとっても大きなことであり、ひいては医療業界全体の未来に貢献でき

医学部に進学してからも、医師になってからも勉強し続けることはできません。先ほど触れた新聞視写の取り組みも、人間性の涵養につながる貴重な機会になっています。医師としての土台は、「朝夕で身につくものではありません。この日々の積み重ねが医師になる自覚と覚悟を促すことにつながってくると信じています。

▼校舎に食堂があるのはなぜですか？

きちんとした食事を提供しないと、食生活が偏り、体調だけでなくメンタル面にも影響があるからです。生徒には温かくておいしい栄養バランスの取れた食事をしっかりとってもらいたいとの強い思いで、正直運営は赤字ですが、ずっと続いています。

▼実際に医学部に入学した生徒さんの様子はいかがですか？

医学部の方からは、「成績優秀で特待生になった」とか「頑張っている学生が多い」と聞いています。また入学ラインギリギリだった学生が、入学後の伸びしろが大きいという声もよく聞き、富士学院出身の学生に対する評価をいただいているのは大変嬉しく感じています。一方で、近年では大学において放校や留年が増加しており、入学時からモチベーションを継続させて国家試験合格まで導くことに苦勞されているという話も聞きます。そのため、大学側から学生の受け入れ体制や育成方法について相談を受けることも

あります。

また、昭和医科大学に推薦型で合格した入学予定者を対象に行う入学前準備教育や、大学のオープンキャンパスで入試対策講座のご依頼をいただくなど、富士学院の知見や指導力がさまざまな場面で求められていることを嬉しく思います。

▼高校とも「校内医学部入試セミナー」を開催されるなど連携されていますね。

これもすべて、「良医を育成する」という理念の「環」で、これまでに全国で延べ400校以上の高校で行っています。ネット社会であつても、地域によっては医学部受験に関する情報が不足している現実もあります。また高校ではあらゆる学部の進路指導を担っており、医学部に特化した指導を行うのは容易ではありません。そのため、高校からの依頼でセミナーのほかにも、医学部志望の生徒を対象とした保護者会を実施したり、面接指導を行うなど、幅広いサポートを行っています。

医学部は入試の変更点だけでも毎年、かなりの数があります。また、学費や生活費を全額支援してくれる大学があることを知らずに、「学費が高いから」と私立医学部をあきらめてしまふ受験生も少なくありません。こうした受験情報格差を縮めることは、より多くの良医が増えていくことにつながっていくと考えています。

この事も読解力の強化につながっていると思います。

人間的な成長を促し 医師になる「自覚と覚悟」 を育てる

▼他にも医学部受験に必要なことはあります。

医学部入試は「就職試験」でもあり、医師を目指すうえでは学力だけでなく、人間性も問われます。だからこそ、すべての医学部入試で面接試験が行われ、医師になるのに相応しいかどうかが判断されるわけです。そのため、富士学院では面接指導を大事な取り組みとして早期から行っています。徹底しているのは「なぜ医師になりたいのか」という本質的な問いかけです。医師は生涯勉強し続けなければならない職業です。「医師になる覚悟」がなければ、受験勉強はおろか、

ると確信しています。また、天野先生には、医大生向けの講演会の開催や、全校舎で実施している「自立講座」を通じて、医師としての覚悟、責任、そして学びの姿勢について講演をいただいています。

▼最後にメッセージをいただけますか。

これまで多くの生徒と関わってきた感じるのは、誰もがそれぞれに大きな可能性を持っているということです。しかし、最近是自己肯定感が低い生徒が増えてきています。富士学院では、学習面や生活面等において小さな成功体験を積み重ねることで、生徒が少しずつ自信をつけ、「生きる力」を養い、着実に成長していきけるようサポートしています。合格のためには「成長」というキーワードは必須であり、各予備校がどのように生徒の内面的な成長を支えているのかを、ぜひよく見ていただきたいと思います。

医学部受験 富士学院

富士学院 検索

全て直営校で運営

東京御茶ノ水校： ☎0120-01-9179

東京十条校： ☎0120-02-9179

横浜校： ☎0120-04-9179

名古屋校： ☎0120-9816-33

京都校： ☎0120-05-9179

大阪校： ☎0120-06-9179

大岡校： ☎0120-9179-00

広島校： ☎0120-09-9179

福岡校： ☎0120-5251-22

鹿児島校： ☎0120-66-9179